全国学校図書館協議会主催

読書の楽しさと知る喜びを一人でも多くの子どもたちに！

SLA School Library Association

第4回 SOLASIDO

「詩のあん唱」コンクール

結果発表

全国学校図書館協議会が創立70周年記念事業として立ち上げた「あん唱運動の会」から生まれた（詩を声に出す喜びSOLASIDO）、「詩のあん唱コンクール」に全国からたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。応募作品数337点の中から、入賞作品が決まりました。入賞16作品を発表いたします。

SOLASIDO は、
空（SOLA ソラ）で
詩（SI シ）を読む
活動（DO ドう）です！

QRコードから
あん唱の動画が
ご覧になれます

金賞

神奈川県 川崎市立 宮前小学校 4年
後藤 日向

「生きる」谷川俊太郎

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみすること
あなたと手をつなぐこと

生きているということ
いま生きているということ
それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ
それはアルプス
すべての美しいものに出会うということ
そして
かくされた悪を注意深くこばむこと

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

生きているということ
いま生きているということ
いま遠くで犬が吠えるということ
いま地球が廻っているということ
いまどこかで産声があがるということ
いまどこかで兵士が傷つくということ
いまぶらんこがゆれているということ
いまいまが過ぎてゆくこと

生きているということ
いま生きているということ
鳥ははばたくということ
海はとどろくということ
かたつむりははうということ
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ

生きる　谷川俊太郎 詩　岡本よしろう 絵［福音館書店］

銀賞

東京都 港区 東京インターナショナルスクール 6年
村山 琴音

「戦争は誰のために」村山 琴音

大きな音が　ひびいている
カーテンから　のぞくと
赤い炎の　森が見える
毎日毎日　終わるのを待っている
なぜ私たちがこんなめに
お父さんにも会えない
学校にも行けない
生きのびられるかも　わからない
私たち市民は　何ひとつ悪くないのに
なぜだろう　なぜだろう
胸がキュッと押しつぶされそうに
心が閉ざされそうに
戦争は誰のために　あるのだろう

戦争は誰のために 村山琴音［自作］

銅賞

福島県 会津若松市立 鶴城小学校 5年
竹村 凛生

「からたちの花」北原白秋

からたちの花が咲いたよ
白い白い花が咲いたよ
からたちのとげはいたいよ
青い青い針のとげだよ
からたちは畑の垣根よ
いつもいつもとほる道だよ
からたちも秋はみのるよ
まろいまろい金のたまだよ
からたちのそばで泣いたよ
みんなみんなやさしかつたよ
からたちの花が咲いたよ
白い白い花が咲いたよ

小学校 国語［光村図書］

特別賞

東京都 小平市
Malvern College Tokyo
2年 岡本一真 ※一部自作
1年 岡本恵茉
「雨ニモマケズ」宮沢 賢治
ようじの暗唱
［株式会社 EQWEL］

優秀賞

東京都 目黒区
一般社団法人 HANASO Speech Academy 3年
高沼 陸人
「がってん音頭」海上和子原案、重水健介補作 ※一部自作
みんなの群読脚本集　［高文研］

愛知県 名古屋市立
田代小学校 2年・6年
村田 誠・大和
「どきん」谷川俊太郎
詩の散歩道 谷川俊太郎少年詩集 どきん［理論社］

東京都 武蔵野市
成蹊小学校 1年
西田 達輝
「朝がくると」まど・みちお
いのちのうた まど・みちお詩集［角川春樹事務所］

奨励賞

大阪府 泉大津市立
条南小学校 4年
西尾 紬希
「生き生きと」谷川俊太郎
谷川俊太郎公式ホームページ［谷川俊太郎公式X］

兵庫県 西宮市立
夙川小学校 3年
澁谷 莉央
「おねがい」
自作

東京都 江東区立
水神小学校 3年
武藤 真桜
「ありがとう」谷川俊太郎
ありがとう［講談社］

富山県 富山市立
呉羽小学校 3年・5年
林 あこ・ゆい
「みどりのほし」林木林
みどりのほし［童心社］

北海道 札幌市立
有明小学校 2年
佐川 道佳
「じっとみるの」たちばなはるか
じっとみるの［岩崎書店］

団体賞

兵庫県 西宮市
甲子園学院小学校 2年
「ごじゅうおん」北原白秋
みんなの群読脚本集　［高文研］

団体奨励賞

広島県 三原市立
須波小学校 1年
「みどりのほし」林木林
みどりのほし　［童心社］

神奈川県 横須賀市
筑波大学附属
久里浜特別支援学校小学部 5年
「蜂と神さま」金子みすゞ
金子みすゞ名詩集　［彩図社］

沖縄県 うるま市
沖縄アミークスインターナショナル 6年

審査員のコメント

谷川賢作
音楽家

今年も楽しく（連続で応募してくれた子との再会、新しい子との驚きの出会い！）そして苦しく（なぜって？誰かが誰かより優れてる、なんて本当は決めたくないのです）審査させて頂きました。映像でも子どもたちの本気が十分伝わってきます。だから自分の中の審査基準にどうしてもブレが出てきます。どうしても、活発なエネルギッシュな子に気持ちが持っていかれる感じはあるのですが、そうではない、クールな朗読をする子の、内に秘めた感覚と感情に感応できるかどうか。私も試されている気がします。

文月悠光
詩人

第4回を迎え、自作詩の応募が増えていることが嬉しいです。自分で書いた詩を自分で読む。実は大きな挑戦です。詩を伝えるには、言葉と距離をとることが必要だからです。からだを動かす暗唱も多かったのですが、読む方が疎かになっていないか点検してみてください。ジェスチャーも声の抑揚も、感情を込めて読むことも「人に伝えるため」であることを忘れないでほしいと思います。工夫も大切ですが、ときには引き算も大いに効果的なのです。

吉開菜央
映像作家・ダンサー・振付家

実感のこもった声というのは、なぜこれほど切実に伝わるのだろうか、今年はそういうことを思いました。もちろん、人の心のうちを本当に知ることはできないので、あくまでわたしがそう感じただけではありますが、心を惹かれたあん唱は、読んでいる方それぞれの個性や、日々の生活、想いと出会い、化学反応が起きて輝くように感じました。読み手の心身を通して、その人自身の声になること、それって何か、小さいけれどすごいことが起きている気がします。日々の生活の中に、詩があり、歌があることのありがたみを、改めて感じました。

設楽敬一
全国学校図書館協議会理事長

今年の作品は、レベルが高く甲乙つけがたかった。あん唱する場所や背景、姿勢や動きなどにも工夫が見られた。自作の詩も面白かった。
やはり、過去の入賞作品をWebサイトで掲載した効果だと思う。あん唱は音が命だと思う。雑音を避け、滑舌をよくしてクリアーな音、そして解釈した内容が伝わるようなあん唱を期待します。

富貴大輔
朝日小学生新聞編集長

「詩のあん唱」は、正解が1つではないところに、おもしろさと、難しさがあります。同じ詩を選んでも、映像を見ると人によってまるでちがいました。身ぶり、表情、衣装、収録場所……どうすれば自分や、見てくれた人を楽しませるのか、練習と工夫を重ねた様子がうかがえました。今回の受賞作は特に、「この人ならでは」という表現に秀でた作品が選ばれました。

主催／公益社団法人 全国学校図書館協議会　協力／朝日学生新聞社
協賛／アリス館、岩崎書店、講談社、童心社、フレーベル館、文研出版、ほるぷ出版、理論社、図書館流通センター（TRC）

本事業は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）の共通目的基金の助成を受け実施されています

共通目的事業・助成事業 SARTRAS